

科目	目的・目標	内 容	単位 (時間)	方法	進度
精神に障がいをもつ人のセルフケアを支える実習	<p><目的> 精神に障がいをもつ対象を理解し、対象の反応を的確に捉え意図的な対応や支援を展開する能力を養う。</p> <p><目標> I. 障がいも生活を構成する因子の一つであることを理解し、人間の健康を、身体的・精神的・社会的な視点からとらえることができる。</p> <p>II. 人のところを見る視点、その動きやストレスの影響、こころの防衛機制、その危機と回復など、こころのありようをめぐる基本的事項を学ぶ。</p> <p>III. 人格形成における、母子関係の相互交流的なコミュニケーションと家族内の役割関係及び、グループのダイナミクスについて理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の言動を否定せずに聴き、対象をありのままに受け止める。 2. 対象の言動の背景にある意図や願望を読み取る。 3. 治療的コミュニケーション技術を活用する。 4. プロセスレコードを記載し対象の言動・行動の意味を振り返ることができ、対象との関係構築に活かす。 5. 自己の感情や行動の傾向に気づき自己理解を深める。 6. 対象の生育歴・生活史・現在に至るまでの情報を収集する。 7. 対象の精神症状の特徴を捉える。 8. 対象のセルフケアに焦点を当てたアセスメントを行い、対象のセルフケアの維持・向上を考慮した援助計画を立案し実施、評価する。 9. 対象の人権を尊重について考え実施する。 10. 病院内外での社会復帰に向けた取り組みについて考える。 	2 90	<p>【臨地】 場所：星ヶ丘病院</p> <p>期間：10日間</p> <p>形態： ・対象1事例を受け持ち、看護過程の展開を行う。</p> <p>・看護場面の再構成や、日々のプロセスレコードカンファレンスを通して、自己の振り返りを行う。</p> <p>・精神科外来、デイケア、作業療法等を見学する。</p> <p>・共有会を実施し、病棟ごとに特徴や対象に行われている看護について発表し、学びの共有を図る。</p>	3年次 前期